

## 第1回埼玉県科学技術・イノベーション会議における意見

No.	意見・質問等	フレーム案の 該当箇所
1	SDGs については、基本フレームのどこかにキーワードを入れたほうがいいのか。	全体、基本理念
2	埼玉の特徴をどこに出していくのか。いいものがいろいろ、ポテンシャルがあるのに、有機的に結び付けられていない気がする。	全体
3	埼玉が、新しい課題を解決するきっかけづくりを担う、というビジョンを持つ。	ビジョン
4	スーパーシティも含めて、埼玉県の魅力と稼ぐ力を上げるという構想にしたほうが説得力が高まるのではないか。	基本理念
5	技術の実装は手段。技術の実装が最終目的ではなく、みんなが住みたくなる県を作ることなのではないか。	基本目標 I (技術の実装)
6	東京ではできない魅力が埼玉にはある、ということアピールして、それによって人が埼玉に引っ越してきてくれる、企業が移転してきてくれる、というところにつなげていくことが、県レベルでの科学技術・イノベーション基本計画の考え方ではないか。	基本目標 I (技術の実装)
7	スマートシティについては、放っておくと市町村がそれぞれ別のシステムを作り、市の境を超えたらデータ連携ができない、という可能性がある。インターオペラビリティ(相互運用性)を考えないといけない。本計画の中で、基礎自治体との協力連携やサービスの統一につながるような表現できるとよい。	基本目標 I (技術の実装)
8	環境は今後ますます注目される分野である。埼玉県を環境先端県にしていくということもありなのではないか。	基本目標 I (技術の実装)
9	埼玉県も高齢化が進んでいるので、技術の実装で「医療」「健康」「生活の向上」は必要なこと。	基本目標 I (技術の実装)
10	県では今後どういう産業を育てていくのか。中小企業を育てることは重要。	基本目標 II (産業振興)
11	IoT・デジタル化の推進による企業の生産性の向上は重要。DX によって生産性が上がるというようにしないと競争に勝ち残れないと理解している。	基本目標 II (産業振興)

No.	意見・質問等	フレーム案の 該当箇所
12	カーボンニュートラルに対応できない企業に対して、県はまずは情報提供をするべき。そのうえで、努力している企業に対しては一部補助も必要ではないか。	基本目標Ⅱ(産業振興)
13	県内には世界最先端の研究所がある。そういった研究所と県内企業を結び付ける産学連携をもっと推し進めることがありうるのではないか。世界を代表する研究所が埼玉県にはある、ということをもっと活用すべき。	基本目標Ⅱ(産業振興)
14	産学官金連携、金融まで巻き込んでやっていくのがいい。	基本目標Ⅱ(産業振興)
15	オープンイノベーションの必要性を感じない企業が全業種の4分の1、製造業に限っても5分の1。このあたりが、政策的な手当てで意識が変わってくると、次のフェーズに進むきっかけになるのではないかという印象を持った。	基本目標Ⅱ(産業振興)
16	研究開発の機能を持っていない中小規模の企業に対して、SAITEC内に検証ができる環境、指導員を整えてサポートすることが役立つのではないか。そういったことを推進し啓もう活動を進めることで、県内の科学技術の水準が向上する。	基本目標Ⅱ(産業振興)
17	高い技術力を持っている企業もあり、その企業の技術力や製品がないとビジネスが回らなくなることもある。そういった企業が後継難で、また、コロナの影響もあり、廃業する事業者も増えてしまうのではないか。改めて、県下の企業が持っている強みや独自性(独自の技術力)、グローバルニッチトップ企業をしっかりと俯瞰し把握したうえで、技術の承継をサポートする視点も必要だと感じる。廃業してもらっては困る業態、企業もある。そういった企業をしっかりと支えて事業承継していく、ひいては次世代産業が伸びていくシーズになるかもしれない。	基本目標Ⅱ(産業振興)
18	ベースに必要なのは人材。発想力が乏しくなっている。低学年のころから、バランスはよくないけれども、特徴を伸ばすような仕組みづくりが必要ではないか。	基本目標Ⅲ(教育、人材育成)
19	リカレント教育は今後大事になってくる。国もリカレント教育を推し進めてる。本来は教育プログラムをしっかりと作るべき。	基本目標Ⅲ(教育、人材育成)

No.	意見・質問等	フレーム案の 該当箇所
20	リカレント教育も含めた教育の機会、一定のキャリアを積んだ方に再度教育する機会を設け、ビジネスのスキルをブラッシュアップ、ステップアップさせることが極めて重要。今後生産年齢人口が減っていく中で、限られた人材をいかにうまく活用するかという時代になる。	基本目標Ⅲ(教育、人材育成)
21	アンケート結果では、研究開発する上での課題も大学との連携においても人材不足ということになっている。研究開発する人がいないということが読み取れる。計画を作る際に、そのところを明示するのがよい。	基本目標Ⅲ(教育、人材育成)
22	「科学技術を担うプロフェッショナル人材の育成」には、産業人材も入るはず。「科学技術及び産業を担うプロフェッショナル人材の育成」などとしたほうがいいのではないか。	基本目標Ⅲ(教育、人材育成)
23	カーボンニュートラル 2050 について、資料だけ見ていると数値目標がない。本計画は 5 年計画であるが、2050 年までの残り 30 年に対して、この 5 年でどこまでやるかというマイルストーン的な目標を立てて実施したほうがいいのではないか。	指標
24	目標に対してどこが担当するのか。主担当を決めておかないと責任がどこにあるのかがわからなくなってしまう。	指標、施策